



平成30年3月期

第2四半期（中間期）決算説明資料

平成29年11月



決算ダイジェスト 3頁

損益状況 <連結> 4頁

損益状況 <セブン銀行> 5頁

損益状況 <FCTI> 6頁

損益状況 <インドネシア・国内子会社> 7頁

財務の状況 <セブン銀行>・配当政策 8頁

中期経営計画 【進捗状況】

3ヶ年 基本方針 10頁

ATMプラットフォーム事業 11.12頁

決済口座事業 13頁

海外事業 14頁

グループ金融戦略 15.16.17頁

参考資料 <セブン銀行>

ATM利用件数と受入手数料単価の推移 19頁

ATM台数と平均利用の推移 20頁

決済口座事業 21頁

※決算発表資料は、当社Webサイトからご覧いただくことができます。
(<http://www.sevenbank.co.jp/ir/library/presentation/>)

2017年度の見通し

- 当第2四半期は、前年同期比**増収増益**
 - ・収益は計画をやや下回ったが、経費コントロールに努め利益は計画達成
- 「**単体**」「**連結**」共に**期初計画**の達成を目指す
 - 【国内】
 - ・中期経営計画に従い各施策を強力に推進
 - 【海外】
 - ・セブン-イレブン中心に米国でのATM事業を本格展開

損益状況＜連結＞

(単位：億円)

	16年度		17年度		17年度	
	通期実績	上期	上期実績	前年差異	通期計画	上期
経常収益	1,216	612	622	10	1,308	627
経常費用	848	421	423	2	921	434
経常利益	367	191	198	7	386	192
純利益	251	129	136	7	264	131

注1) 本資料における計数は全て表示単位未満切捨て

注2) 本資料における前年差異は全て表示単位で比較

注3) 連結損益の為替レート

1米ドル：2016年度通期実績＝108.78円 2017年度上期実績＝112.34円、2017年度通期計画＝110.00円

注4) 純利益は親会社株主に帰属する当期（中間）純利益

損益状況＜セブン銀行＞

(単位：億円)

	16年度 通期実績	上期	17年度 上期実績	前年差異	17年度 通期計画	上期
経常収益	1,131	568	581	13	1,170	585
うちATM受入手数料	1,037	523	532	9	1,060	533
経常費用	741	367	366	△1	760	379
うち資金調達費用	9	4	3	△1	8	3
うちATM設置支払手数料	138	69	71	2	146	72
うち業務委託費	178	89	91	2	185	93
うち保守管理費	40	20	21	1	42	21
うち減価償却費	175	86	78	△8	161	80
経常利益	389	200	215	15	410	205
特別損益	△1	△0	△0	0	△1	△0
法人税等合計	118	61	66	5	125	63
純利益	268	138	148	10	283	142
EBITDA	565	286	293	7	571	286
期末ATM設置台数 (台)	23,368	23,029	23,873	844	24,300	23,800
ATM受入手数料単価 (円)	133.1	133.1	133.0	△0.1	133.0	132.3
平均利用件数 (件/台/日)	95.5	97.0	95.3	△1.7	94.3	95.9
総利用件数 (百万件)	796	401	409	8	815	412

注) EBITDA = 経常利益 + 減価償却費

損益状況<FCTI>

(単位：百万ドル)

	16年度 通期実績	上期	17年度 上期実績	前年差異	17年度 通期計画	上期
経常収益	77.6	38.9	35.9	△3.0	122.8	37.2
経常費用	84.2	40.9	43.5	2.6	130.6	43.1
経常利益	△6.6	△1.9	△7.6	△5.7	△7.8	△5.9
純利益	△4.3	△1.3	△4.9	△3.6	△5.0	△3.7
EBITDA	0.2	1.5	△4.6	△6.1	3.5	△3.0
ATM台数(台)	6,227	6,437	5,674	△763	12,640	4,500

注) 2017年9月末時点のATM台数=7,789台 (SEI設置2,162台、自社保有4,652台、設置先保有975台)

損益状況<インドネシア・国内子会社>

ATMi

(単位：百万円)

	16年度 通期実績		17年度 上期実績		17年度 通期計画	
		上期		前年差異		上期
経常収益	49	23	35	12	127	50
経常費用	131	66	85	19	224	100
経常利益	△82	△42	△50	△8	△97	△50
純利益	△47	△27	△34	△7	△72	△37

注1) 為替レート

: 100インドネシアルピア

2016年度通期実績 = 0.817円 2017年度上期実績 = 0.843円 2017年度計画 = 0.900円

注2) 2017年9月末時点のATM台数135台

BBF

(単位：百万円)

	16年度 通期実績		17年度 上期実績		17年度 通期計画	
		上期		前年差異		上期
経常収益	815	403	436	33	926	460
経常費用	833	406	429	23	894	440
経常利益	△18	△3	7	10	32	20
純利益	△18	△3	6	9	20	13

財務の状況<セブン銀行>・配当政策

貸借対照表（2017年9月末）

（単位：億円）

現金預け金 6,680

（ATM装填用 等）

預金 6,150

（個人預金 4,013 ）

社債・借入金 900

ATM仮受金 567

その他 186

有価証券 943

ATM仮払金 1474

その他 790

純資産 2,084

資産 9,887

負債+純資産 9,887

単体自己資本比率（国内基準） 55.2%（速報値）

格付

S&P A+

R&I AA

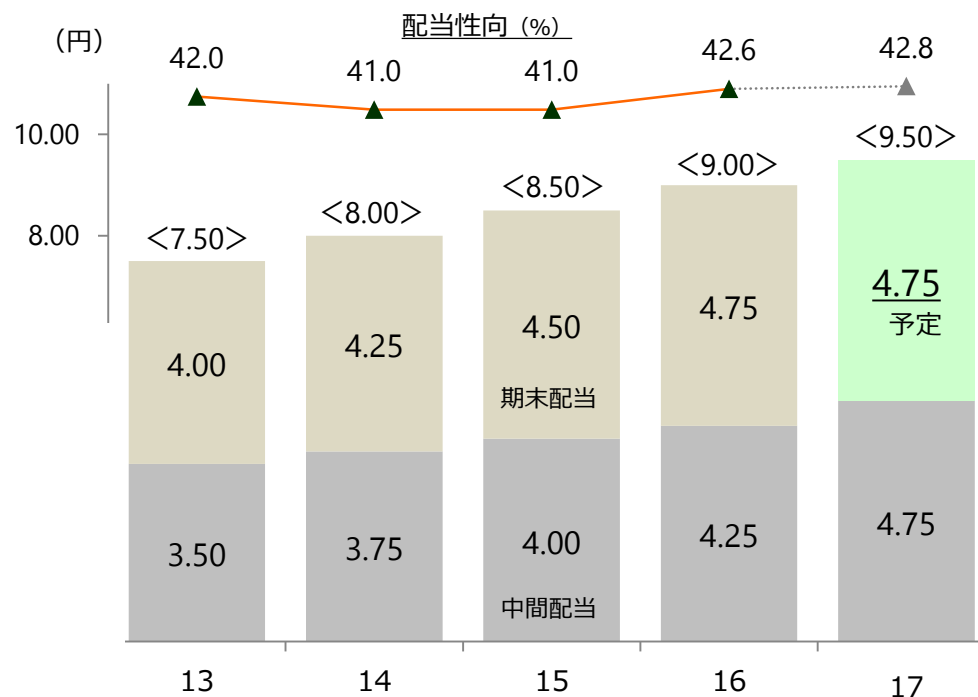
配当方針

連結配当性向年間40%を最低目標に、年2回の配当を実施

中間配当

配当金額 : 1株当たり4.75円（配当総額約50億円）

支払開始日 : 2017年12月1日



2017年度-2019年度
中期経営計画 【進捗状況】

本業を伸ばしつつ事業の多角化を実現

ATMプラットフォーム事業

新たなATM利用スタイルを創造

決済口座事業

グループ来店2,200万人/日のお客さまに流通らしい金融サービスを提供

海外事業

米国事業を軌道にのせ、アジアは基礎固め

ATMプラットフォーム事業

主要施策と進捗状況

ATM設置台数は計画達成、利用件数は計画に届かず
新規ATM利用スタイルの創造は計画通り進捗

堅実な 規模の拡大

- ・ ATM台数は計画通り増加
- ・ S&B、複数台設置の拡大など効率性を追求

更なる 品質の改善

- ・ スマホ取引、振込実施銀行の拡大に注力
- ・ セブン-イレブン設置のATM利用環境改善を実施

新たな ATM利用 スタイルの創造

- ・ 新たなカテゴリーと順次提携
→ソフトバンクペイメント、LINEPay
- ・ 現金受取サービスの開始に目途（来春開始）

2019年度計画
経常収益

+150億円

+150億円

ATM受入手数料
1,037億円

既存型
取引

新しい形の
取引

既存型
取引

2016

2019

11

現金受取サービス

送金ニーズへの対応

- 24時間365日、企業から個人へお金を届けたいニーズに対応



- ・売上金、報酬（オークション、フリマ、シェアビジネス等）
- ・キャンセル金（EC通販、チケット、乗車券、航空券等）
- ・スポットの支払い（懸賞キャンペーン等）

その他、様々なニーズに対応

- ・来春のサービス開始に向け、事業運営主体となる子会社を設立

子会社概要

- ・会社名 株式会社セブン・ペイメントサービス
- ・設立日 2018年1月予定
- ・事業内容 資金移動業
- ・出資者 セブン銀行100%

提携先の開拓と利用者のサポート

決済口座事業

主要施策と進捗状況

既存サービスは計画通り、新サービスもスタート

個人向けローン

- ・貸付残高は計画通り増加
- ・堅実に利用者を増やす

海外送金

- ・送金件数は順調に増加
- ・スマホアプリによるフィリピン向け送金を開始

デビット

- ・口座数、利用件数は堅調
- ・グループ外店舗での利用促進を強化し利用単価増加

売上金入金

- ・取引先、手数料収入は着実に増加
- ・一般事業者向けのサービスを拡大中

2019年度計画
経常収益

+50億円

リアルタイム振込 (APIを利用した即時振込み)

- ・2017年11月、当社リアルタイム振込を活用した「即払い給与サービス」をドレミング株式会社が提供開始

セブン・ラボ主導のオープンイノベーション第一号案件

海外事業

FCTI

2017年8月より、米国セブン-イレブン店舗へのATM設置
をスタート

9月末時点で2,162台の設置完了 米国セブン-イレブン店舗数 8,064店（2017年8月末）

7-11

✓ お客さま増加策

・ サーチャージフリー取引の増加

サーチャージフリーネットワーク（MoneyPass、CO-OP）と契約
→ FCTI社保有の特許技術で、取引開始時に手数料無料を明示

・ ブランディング行の拡大

→ エリア毎に認知度の高い銀行と提携
現状2行、順次拡大へ

7-11
外

✓ 収益性の改善

- ・ 自社保有ATM : 利益確保を優先し契約締結・更新
- ・ 設置先保有ATM : 売却含め、順次整理予定

2019年度計画
経常収益

+200億円

グループ金融戦略

戦略のポイント

2017年5月13日開示資料
再掲

日々ご来店の2,200万人のお客さまに新しい決済サービスを提供

より便利にお買物いただける新しい決済プラットフォームを構築

セブン&アイグループらしい金融サービスの提供

便利でお得感ある新しい「近くて便利」な金融商品を開発

金融各社と小売り現場が一体となり
新しい金融サービスの創造に取り組む

新しい決済サービスの提供



<展開のポイント>

- ① グループ加盟店
- ② 外部加盟店
- ③ 金融商品・サービス提案

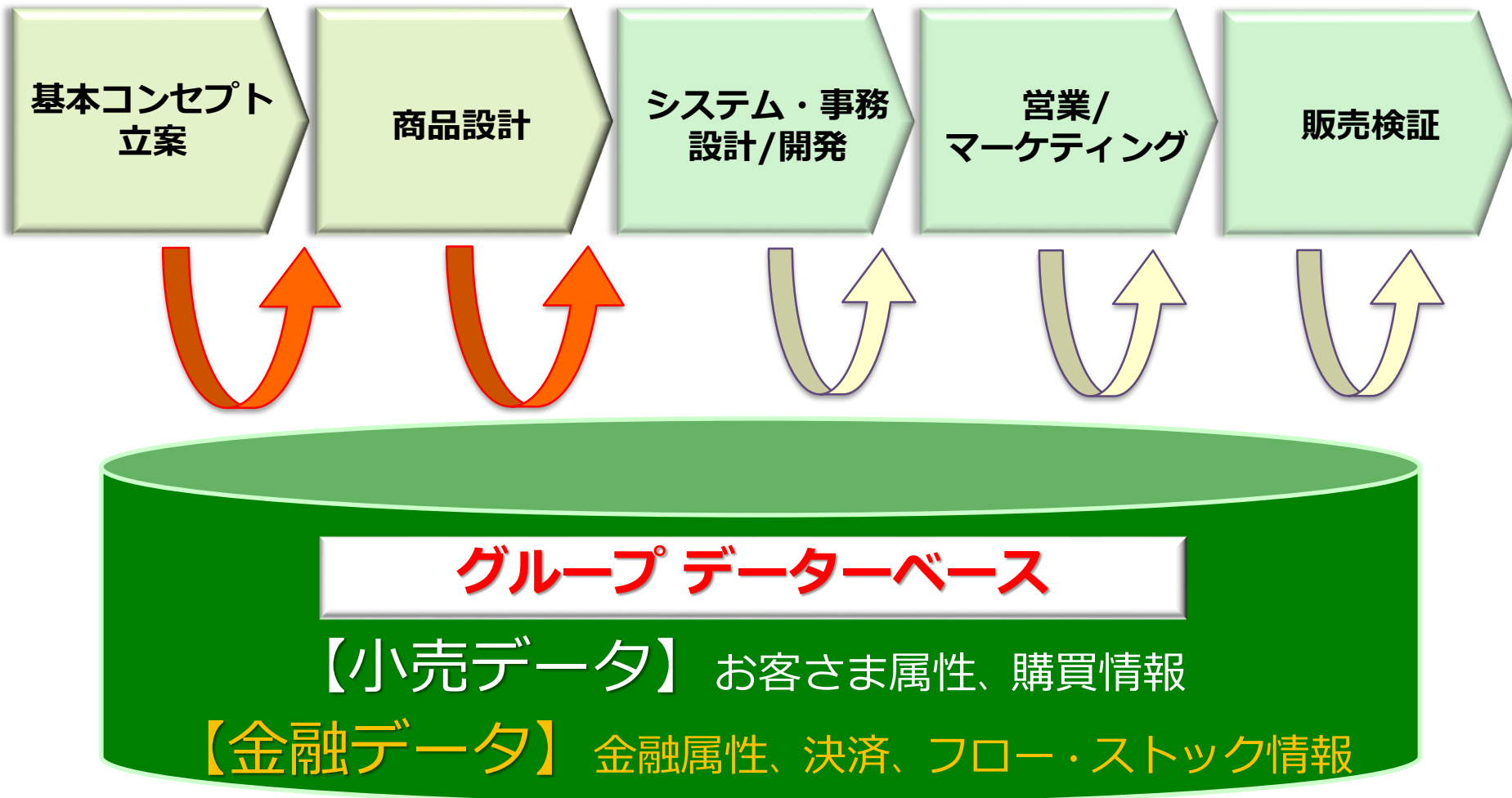
決済サービスの提供、購買データの収集・分析

新商品・サービス開発

One to Oneマーケティング

金融サービスの創造

新商品・サービス開発/販売工程

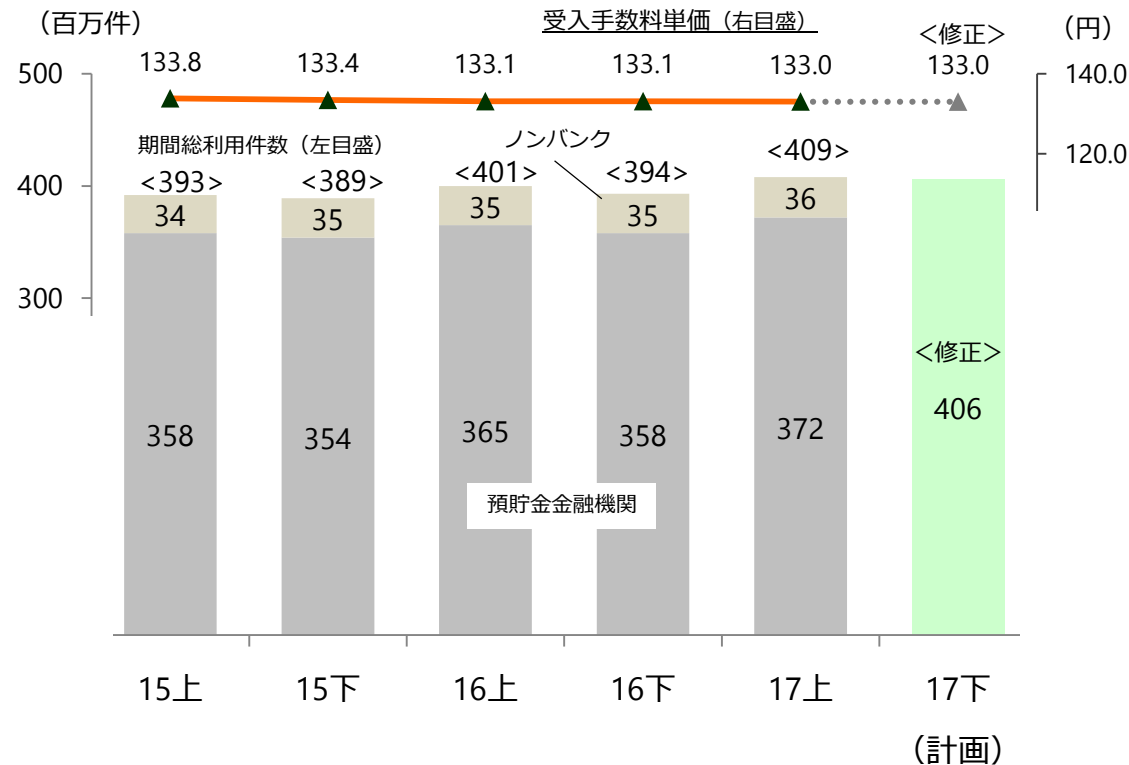


参考資料<セブン銀行>

平成30年3月期 第2四半期（中間期）

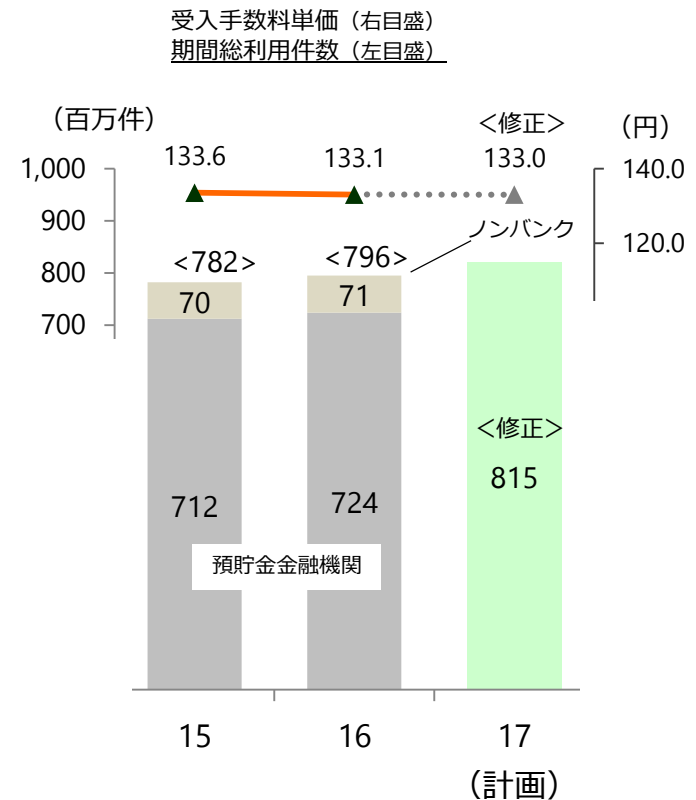
ATM利用件数と受入手数料単価の推移

半期推移

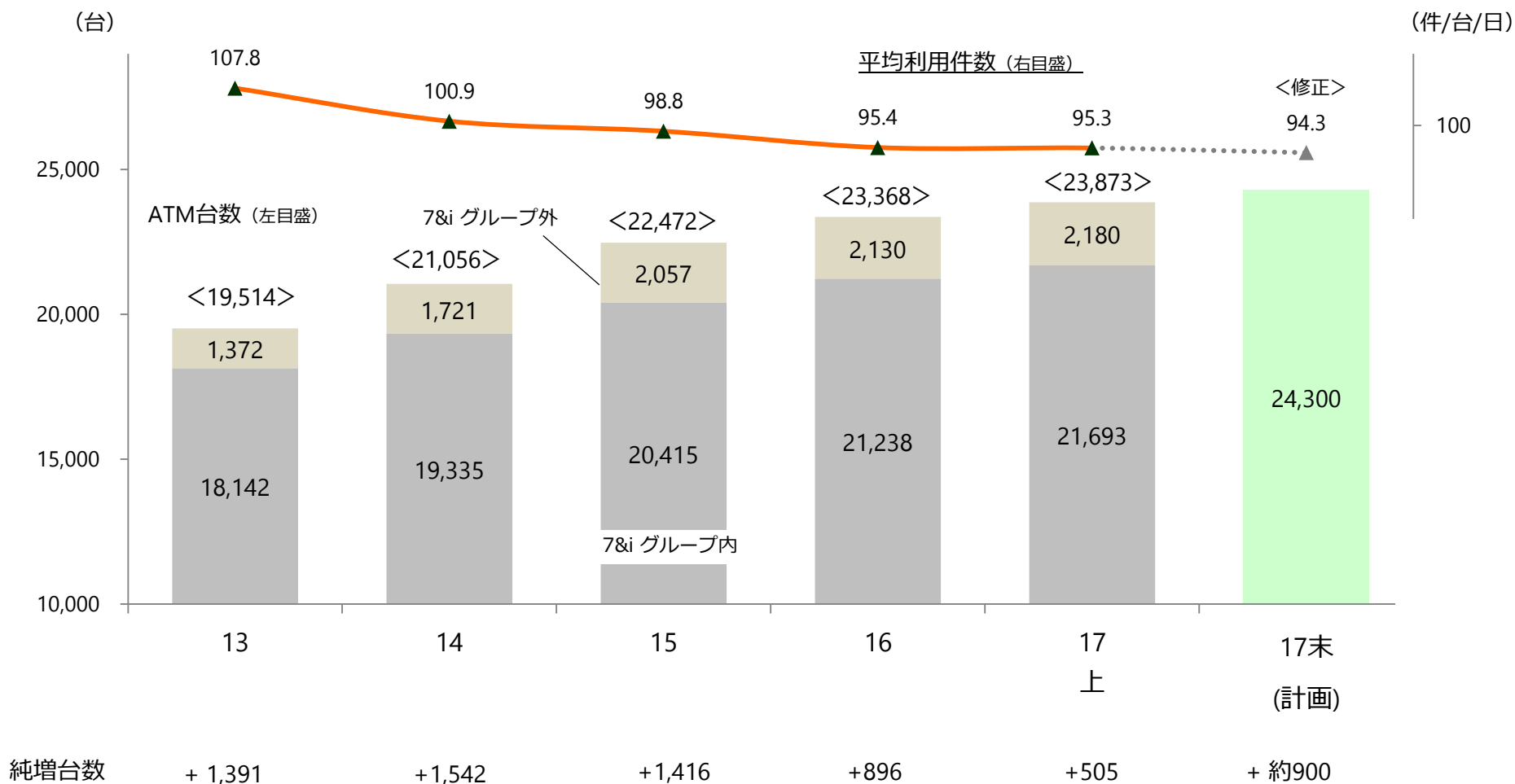


注) 平均利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を含まず

年度推移



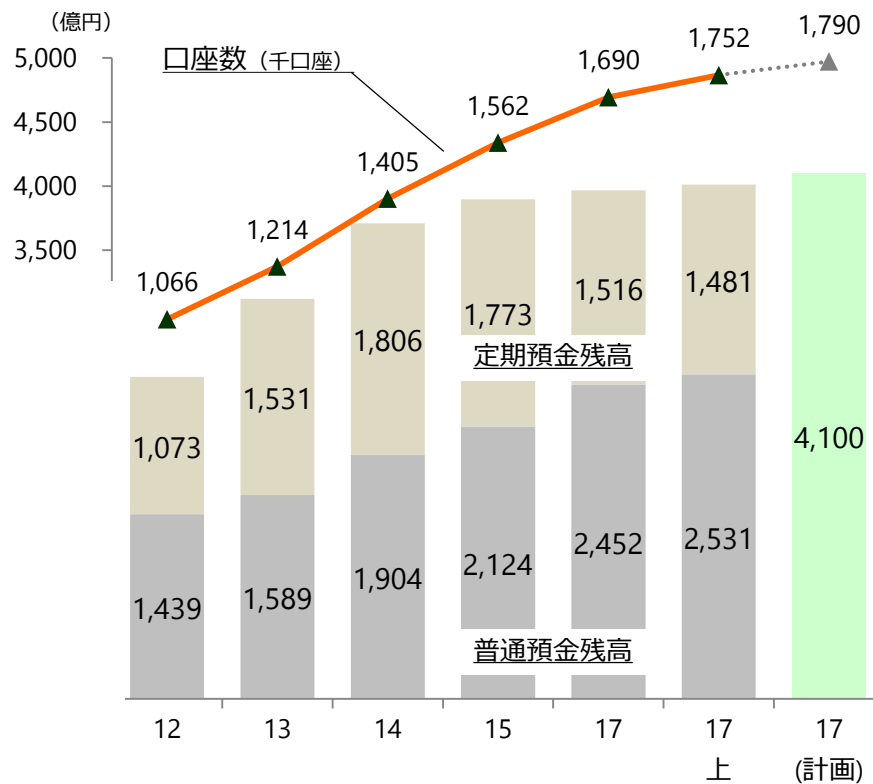
ATM台数と平均件数の推移



注) 平均利用件数には残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を含まず

決済口座事業

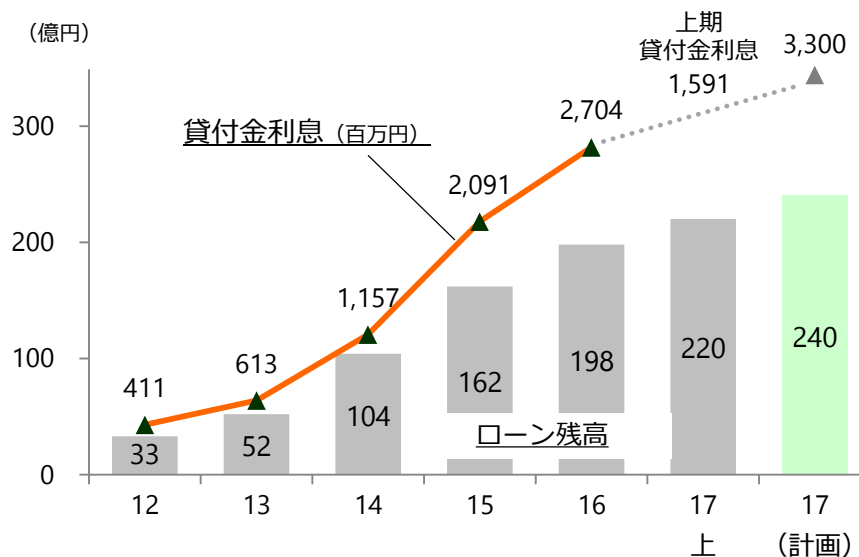
口座数と預金残高（個人）



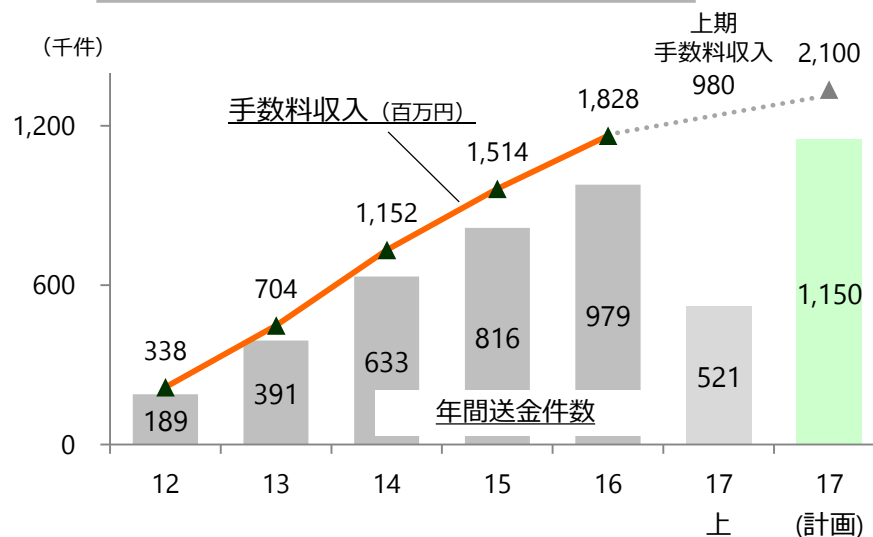
デビットサービス

	17 上期	17 (計画)
契約口座 (千口座)	237	350
取引件数 (千件)	2,808	9,000

個人向けローン



海外送金サービス





本資料には、株式会社セブン銀行及びその連結子会社の業績に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、具体的な歴史的事実を除き、本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を置いています。これらの記述及び前提（仮定）は主観的なものであり、かつ、様々なリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想等とは異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、システム障害、災害、犯罪、その他ATMプラットフォーム事業、決済口座事業及び海外事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社及びその子会社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。